

HP SiteScope

Windows, Solaris, および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン: 11.22

BSM と HPOM との統合についてのベスト・プラクティス

ドキュメント・リリース日: 2013 年 4 月

ソフトウェア・リリース日: 2013 年 4 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2005 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

iPod は Apple Computer, Inc. の商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, および Windows® XP は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

謝辞

本製品には、Apache Software Foundation(<http://www.apache.org/>) (英語サイト) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

本製品には、JDOM Project(<http://www.jdom.org/>) (英語サイト) が開発したソフトウェアが含まれています。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別番号が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください。

PDF 版オンライン・ヘルプ

このドキュメントは、オンライン・ヘルプの PDF 版です。この PDF ファイルは、ヘルプ情報から様々なトピックを印刷したり、オンライン・ヘルプを PDF 形式で読んだりするためのものです。

本ドキュメントの最終更新日：2013年5月8日

サポート

HP ソフトウェア・サポート・オンライン Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア・オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポート・ツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェア・サポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート・ケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア・カスタマとの意見交換
- ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

BSM と HPOM との統合についてのベスト・プラクティス	1
目次	5
BSM と HPOM との統合についてのベスト・プラクティスの概要	6
SiteScope と BSM との統合	7
SiteScope と HPOM アプリケーションとの統合	17
SiteScope と BSM または HPOM との統合についての推奨事項	21
SiteScope の統合の問題に対するトラブルシューティング	22
BSM トポロジの問題	23
Operations Manager イベント統合の問題	26
BSM メトリクス統合の問題	35
Operations Manager メトリクス統合の問題	38
BSM CI ダウンタイムの問題	42

BSM と HPOM との統合についてのベスト・プラクティスの概要

本書では、SiteScope と HP Business Service Management (BSM) および HP Operations Manager (HPOM) 製品との統合を設定する際のベスト・プラクティスおよびトラブルシューティングについて説明します。

本書の内容

- 「SiteScope と BSM との統合」(7ページ)
SiteScope と BSM アプリケーションとの統合のベスト・プラクティスについて説明します。
- 「SiteScope と HPOM アプリケーションとの統合」(17ページ)
HP Operations Manager (HPOM) 統合を使用および設定して HPOM または HP Performance Manager にイベントを送信する、またはメトリクスをレポートする際のベスト・プラクティスについて説明します。
- 「SiteScope と BSM または HPOM との統合についての推奨事項」(21ページ)
SiteScope を BSM や HPOM アプリケーションと使用する際のベスト・プラクティスについて説明します。
- 「SiteScope の統合の問題に対するトラブルシューティング」(22ページ)
SiteScope と BSM および HPOM アプリケーションとの統合を使用および設定する際のトラブルシューティングについて説明します。

第1章

SiteScope と BSM との統合

SiteScope は、Business Service Management (BSM) の多くのアプリケーションで使用されるデータをレポートするのに使用できます。本項の内容は、SiteScope と BSM アプリケーションとの統合の際の利点、前提条件、ベスト・プラクティスおよびトラブルシューティングについての詳細です。

本項の内容

- 「統合の利点」(8ページ)
- 「統合の前提条件」(9ページ)
- 「統合オプションと詳細」(10ページ)
- 「トラブルシューティング」(16ページ)

注: SiteScope と BSM または Operations Manager (HPOM) との統合に関する推奨事項については、「SiteScope と BSM または HPOM との統合についての推奨事項」(21ページ)を参照してください。

統合の利点

- **イベント**: SiteScope からイベントを直接設定および生成したり, 既存の警告をイベントとして再使用したり, SiteScope のイベントを BSM のオペレーション管理 やサービス状況で管理および使用したりできます。詳細については, SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』を参照してください。HP Software Integrations では, 本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。
- **Run-time Service Model(RTSM)**: SiteScope は, 監視対象システム上のトポロジを検出して BSM の RTSM に報告できます。これらの検出された構成アイテム(CI)を, ビジネスが機能しているコンポーネントのサブセットとともに表示して管理および作業ができます。詳細については, 『SiteScope の使用』ガイドの「SiteScope データと BSM の構成アイテムとの統合」を参照してください。
- **サービス状況とサービス・レベル管理**: SiteScope の監視データに割り当てられた状況インジケータは, SiteScope のメトリクスおよびイベント報告時に構成アイテム(CI)の状況についてより詳細に表示します。
 - SAM 管理の中央管理されているインジケータ割り当てリポジトリでインジケータを管理する方法の詳細については, BSM ヘルプにある『BSM アプリケーション管理ガイド』の「インジケータ割り当ての設定」を参照してください。
 - SiteScope でメトリクスをインジケータにマッピングする際の詳細については, 『SiteScope の使用』ガイドの「SiteScope メトリクスのインジケータへの割り当て」を参照してください。
- **システム可用性管理**: システム可用性管理 管理の内部から複数の SiteScope を表示して管理できます。詳細については, BSM ヘルプにある『BSM アプリケーション管理ガイド』の「SAM 管理の概要」を参照してください。
- **レポート**: システム可用性管理 とオペレーション管理で SiteScope モニタ・メトリクスのレポートを作成して表示できます。
 - システム可用性管理 レポートの詳細については, BSM ヘルプにある『BSM ユーザガイド』の「システム可用性管理 レポート」を参照してください。
 - オペレーション管理のパフォーマンス・グラフ作成の詳細については, BSM ヘルプにある『BSM ユーザガイド』を参照してください。
- **Service Health Analyzer(SHA)**: SHA はメトリクスを分析したり, 動的なベースラインを計算して各メトリックの動作が正常かどうかを検出したり, 関係したメトリクスを自動的に単一の有意なイベントと関連させたりします。
- **ダウンタイム**: 中央管理によって, BSM の一か所から IT インフラストラクチャにダウンタイムを設定することができます。詳細については, 『SiteScope の使用』ガイドの「CI のダウンタイム」を参照してください。

統合の前提条件

統合を有効にする必須要件を以下に示します。

SiteScope 統合	前提条件	有効になるレ ポート
BSM	システム可用性管理 ライセンス。詳細については、BSM ヘルプにある『BSM アプリケーション管理ガイド』の「SAM 管理の概要」を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• メトリクス (BSM 統合を使用)• BSM へのトポロジ・データ
HP Operations Manager	SiteScope サーバに HP Operations Agent がインストールされている必要があります。詳細については、『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• メトリクス (Operations Manager 統合を使用)• BSM のオペレーション管理へのイベント

統合オプションと詳細

SiteScope モニタによって収集されたメトリクスやイベント・データは、BSM アプリケーションで使用されます。収集されるデータのタイプや、組織内に存在する監視環境に合わせて統合オプションを選択します。

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
サービス状況	メトリクス 利点 : <ul style="list-style-type: none"> サービス状況のヒントにメトリクスの値を表示する。 計算ルールをカスタマイズして作成できる。詳細については、BSM ヘルプにある『BSM アプリケーション管理ガイド』の「ビジネス・ルール・リポジトリの概要」を参照してください。 オペレーション管理がない場合に推奨します。	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「BSM と通信するように SiteScope を設定する方法」
	イベント (メトリクスの状態変化) 利点 : SiteScope が BSM に送信するデータの量を削減する。 オペレーション管理でイベントを管理している場合に推奨します。	HP Operations Manager	SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント送信に関する項。 注 : HP Software Integrations で、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。 Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39 UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628
	トポロジ (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注 : トポロジをレポートするには、各モニター・インスタンスの[BSM 統合データとトポロジ設定]で[モニターおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
サービス・レベル管理	メトリクス (推奨)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「BSM と通信するように SiteScope を設定する方法」
	イベント (オプション)	HP Operations Manager	SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント送信に関する項。 注 : HP Software Integrations で、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。 Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39 UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628
	トポロジ (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注 : トポロジをレポートするには、各モニターインスタンスの[BSM 統合データとトポロジ設定]で[モニターおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
システム可用性管理レポート	メトリクス (推奨)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「BSM と通信するように SiteScope を設定する方法」
	トポロジ (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注 : トポロジをレポートするには、各モニターインスタンスの[BSM 統合データとトポロジ設定]で[モニターおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
サービス状況およびサービス・レベル管理 / システム可用性管理レポート	<p>SiteScope は、BSM(サービス・レベル管理 やシステム可用性管理 で使用される)、およびメトリクスとイベント(サービス状況 で使用される)にメトリクスをレポートできるため、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> サービス状況 で使用するレポートのモード(イベント, メトリクス, または両方)を決定します。詳細については、前述の「サービス状況」(11ページ)を参照してください。 SiteScope のイベントとメトリクスの両方がサービス状況 に報告されるときにそれぞれの使用に合わせてサービス状況 に影響を与えるためにデータ・プリファレンス(イベントまたはメトリクス)を選択します。詳細については、『SiteScope の使用』ガイドの「BSM サービス状況プリファレンス」を参照してください。 <p>注：メトリック状態変更イベントを使用する場合、イベント統合の設定時に[HP 統合設定]> [BSM サービス状況プリファレンス]で[次の要因に影響される BSM サービス状況]を[イベント]に設定します。詳細については、『SiteScope の使用』ガイドの「BSM サービス状況プリファレンス」を参照してください。[メトリクス]が選択されている場合、SiteScope によってレポートされる状態変更イベントはサービス状況のCIに影響を与えません。</p>		

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
オペレーション管理	<p>イベント(必須)</p> <p>状態の変更 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 未処理の(下位の)イベントを管理するときに使用。 これらのイベントはサービスに影響する。 <p>警告 :</p> <ul style="list-style-type: none"> 警告をイベントとして管理するときに使用。 これらのイベントはサービスには影響しない。サービス状況にイベントやメトリクスのレポート・モードを選択する必要があります。詳細については、前述の「SiteScope と BSM との統合」(7ページ)を参照してください。 <p>状況インジケータから生成されたイベント :</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス状況のメトリクスに計算ルールをカスタマイズして作成する場合に使用。 BSM にメトリクスをレポートする SiteScope (10.x) の以前のバージョンに使用。 	HP Operations Manager	<p>SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント送信に関する項。</p> <p>注 : HP Software Integrations で、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。</p> <p>Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39</p> <p>UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628</p> <p>状況インジケータによって生成されるイベントの詳細については、BSM ヘルプにある『BSM アプリケーション管理ガイド』の「ビジネス・ルール・リポジトリ」を参照してください。</p>

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
	トポロジ 以下の場合に推奨 : <ul style="list-style-type: none"> トポロジ・ベースのイベント関連ルール。 イベントからビューおよび関連 CI へのドリルダウン。 	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注 : トポロジをレポートするには、各モニターインスタンスの[BSM 統合データとトポロジ設定]で[モニターおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
パフォーマンス・グラフ作成 (オペレーション管理で)	メトリクス(BSM またはオペレーション管理で SiteScope データを使用)	<ul style="list-style-type: none"> [プロファイル DB]が選択されたデータ・ソースのとき(標準設定)の BSM 統合 [Embedded HP Operations Agent]が選択されたデータ・ソースのときの Operations Manager 統合 	SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント報告に関する項。 注 : HP Software Integrations で、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。 Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39 UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628
	トポロジ (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注 : トポロジをレポートするには、各モニターインスタンスの[BSM 統合データとトポロジ設定]で[モニターおよび関連 CI のトポロジをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。

BSM アプリケーション	使用するもの	使用する SiteScope 統合 (BSM / HP Operations Manager)	詳細情報
Service Health Analyzer	メトリクス (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「BSM と通信するように SiteScope を設定する方法」
	トポロジ (必須)	BSM	『SiteScope の使用』ガイドの「トポロジ・レポートの設定方法」 注: トポロジをレポートするには、各モニタ・インスタンスの「BSM 統合データとトポロジ設定」で「モニタおよび関連 CI のトポロジをレポート」チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
Service Health Analyzer および サービス状況/ オペレーション管理	<p>SiteScope は BSM(サービス状況 や Service Health Analyzer で使用される) , および イベント(サービス状況 または オペレーション管理 で使用される) にメトリクスをレポートできるため、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> メトリック状態変更イベントを使用する場合、イベント統合の設定時に「HP 統合設定」> 「BSM サービス状況プリファレンス」で「次の要因に影響される BSM サービス状況」を「イベント」に設定します。詳細については、『SiteScope の使用』ガイドの「BSM サービス状況プリファレンス」を参照してください。「メトリクス」が選択されている場合、SiteScope によってレポートされる状態変更イベントはサービス状況またはオペレーション管理の CI に影響を与えません。 SiteScope 警告からイベントを生成するだけの場合、追加の設定は必要ありません(上記の手順が不要となります)。 <p>SiteScope によって生成される異なるイベント・タイプの詳細については、「オペレーション管理」(14ページ)の「イベント」を参照してください。</p>		

トラブルシューティング

- トポロジのレポートの問題については、「BSM トポロジの問題」(23ページ)を参照してください。
- Operations Manager のイベント統合の問題については、「Operations Manager イベント統合の問題」(26ページ)を参照してください。
- BSM メトリクスの統合の問題については、「BSM メトリクス統合の問題」(35ページ)を参照してください。
- Operations Manager のメトリクス統合の問題については、「Operations Manager メトリクス統合の問題」(38ページ)を参照してください。
- CI ダウンタイムの問題については、「BSM CI ダウンタイムの問題」(42ページ)を参照してください。

注: 統合オプションによっては、ここに挙げたトラブルシューティングは特定の HPOM または BSM アプリケーションのみにあてはまる場合があります。

第2章

SiteScope と HPOM アプリケーションとの統合

本項では、BSM 統合を使用および設定してイベントを HP Operations Manager (HPOM) に送信したり、HP Performance Manager (BSM のレポート・コンポーネント) にメトリクスをレポートしたりする際のベスト・プラクティスを紹介します。

注: SiteScope と BSM または HPOM との統合の推奨事項については、「[SiteScope と BSM または HPOM との統合についての推奨事項](#)」(21ページ)を参照してください。

本項の内容

- 「統合の利点」(17ページ)
- 「統合の前提条件」(18ページ)
- 「統合オプションと詳細」(19ページ)
- 「トラブルシューティング」(20ページ)

統合の利点

- SiteScope は HPOM と連動して、エージェントレスとエージェント・ベースのインフラストラクチャ管理の強力な組み合わせを可能にします。
- SiteScope は、SiteScope サーバにインストールされている HP Operations Agent を使用して HPOM と通信できます。エージェントを使用して、SiteScope でイベント・データやメトリクス・データを統合できます。
- HP Operations Agent が監視しているログ・ファイルにイベントが書き込まれると、SiteScope はイベントを送信します。エージェントはデータを読み取ってイベントに変換し、HPOM 管理サーバに転送します。
- SiteScope では、Performance Manager によって収集され、Performance Manager のグラフで使用されるメトリクス・データは HP Operations Agent データ・ストレージに保存されます。
- テンプレートの中央管理：
 - 複数の SiteScope インスタンスからのテンプレートを HPOM から中央管理できます。
 - テンプレートのバージョン・コントロール(ロールバック機能を含む)が可能で、グループ・ポリシーの割り当てに基づいたテンプレート・デプロイメントのスケジュールされた公開も可能です。

統合の前提条件

統合を有効にする必須要件を以下に示します。

前提条件	詳細情報
<p>HP Operations Agent が SiteScope サーバにインストールされている必要があります。エージェントが統合だけに使用されている場合 (監視用ではなく)、HPOM からのエージェント・ライセンスの要求は無視してください。</p> <p>エージェントは、SiteScope のインストール中でも、SiteScope のインストール後も SiteScope 設定ツールを使用してインストールできます。</p>	『HP SiteScope デプロイメント・ガイド』
<p>この SiteScope リリースでサポートされている HPOM バージョンについては、SiteScope リリース・ノートの「HP Operations Manager (HPOM) 統合 サポート・マトリックス」を参照してください。</p>	<p>SiteScope で、[ヘルプ] > [新機能] を選択します。</p> <p>パッチが統合の機能をサポートするのに必要な場合は、HP Software Support siteの[パッチ] ページで確認します。</p>

統合オプションと詳細

次の SiteScope-HPOM 統合オプションを使用できます。組織の既存の監視環境に最適なものを選択してください。

アプリケーション	使用するもの	詳細情報
HP Operations Manager	<p>イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> 状態の変更 : 未処理の(下位の)イベントを管理する場合。 警告 : 警告をイベントとして管理する場合。 <p>ディスカバリ・ポリシー :</p> <ul style="list-style-type: none"> ノード・ディスカバリ・ポリシー(推奨) 利点 : SiteScope によって監視されるノードごとに SiteScope イベントを HPOM に作成されたノードに自動的にマップします。 <p>注 : SiteScope のみで監視しているノードでは, HPOM からの Target Connector ライセンスの要求を無視できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> モニタ・ディスカバリ・ポリシー(必須ではない) 利点 : HPOM Service Navigation マップで SiteScope イベントを SiteScope モニタに自動的にマップします。 <p>テンプレート管理(推奨)</p> <ul style="list-style-type: none"> 利点 : <ul style="list-style-type: none"> HPOM からの複数の SiteScope インスタンスにまたがるテンプレートの中央管理。 テンプレートのバージョン・コントロール(ロールバック機能を含む)。 グループ・ポリシーの割り当てに基づくテンプレートの自動的なデプロイメント。 	<p>SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント送信に関する項。</p> <p>注 : HP Software Integrations では, 本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。</p> <p>Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39</p> <p>UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628</p>

アプリケーション	使用するもの	詳細情報
HP Performance Manager	メトリクス(必須)	SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のイベント報告に関する項。 注 : HP Software Integrations では、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます。 Windows の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39 UNIX の場合 : http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628

トラブルシューティング

- Operations Manager のイベント統合の問題については、「Operations Manager イベント統合の問題」(26ページ)を参照してください。
- Operations Manager のメトリクス統合の問題については、「Operations Manager メトリクス統合の問題」(38ページ)を参照してください。

注: 統合オプションによっては、ここに挙げたトラブルシューティングは特定の HPOM または BSM アプリケーションのみにあてはまる場合があります。

第3章

SiteScope と BSM または HPOM との統合についての推奨事項

SiteScope と Business Service Management (BSM) または Operations Manager (HPOM) との統合についての推奨事項は、次のとおりです。

- SiteScope は、HPOM よりも BSM のオペレーション管理と直接統合することを推奨します。
- デプロイメントによりオペレーション管理との直接統合ができない場合、または SiteScope イベントをオペレーション管理に転送する前に HPOM でイベントの前処理をしたい場合、SiteScope と HPOM を統合してください。

注: SiteScope と HPOM を統合している場合でも、SiteScope を BSM と直接統合し、SiteScope が BSM にトポロジをレポートするように設定することを推奨します (システム可用性管理のライセンスが必須)。トポロジのレポートで、トポロジベースのイベント相関ルールと、イベントからビューや関連 CI へのドリルダウンが可能になります。メトリクスの有無にかかわらず BSM にトポロジをレポートすることは可能です。SiteScope のメトリクスをシステム可用性管理やサービスレベル管理などで使用しない場合、メトリクスなしでトポロジをレポートします。

SiteScope と BSM との統合の詳細については、『SiteScope の使用』ガイドの「SiteScope - BSM 間統合の設定方法」を参照してください。

トラブルシューティング

- トポロジのレポートの問題については、「BSM トポロジの問題」(23ページ)を参照してください。
- Operations Manager のイベント統合の問題については、「Operations Manager イベント統合の問題」(26ページ)を参照してください。
- BSM メトリクスの統合の問題については、「BSM メトリクス統合の問題」(35ページ)を参照してください。
- Operations Manager のメトリクス統合の問題については、「Operations Manager メトリクス統合の問題」(38ページ)を参照してください。
- CI ダウンタイムの問題については、「BSM CI ダウンタイムの問題」(42ページ)を参照してください。

注: 統合オプションによっては、ここに挙げたトラブルシューティングは特定の HPOM または BSM アプリケーションのみにあてはまる場合があります。

第4章

SiteScope の統合の問題に対するトラブルシューティング

本項では、SiteScope を BSM および HPOM 製品と統合する際のトラブルシューティングを説明します。

- 「BSM トポロジの問題」(23ページ)
- 「Operations Manager イベント統合の問題」(26ページ)
- 「BSM メトリクス統合の問題」(35ページ)
- 「Operations Manager メトリクス統合の問題」(38ページ)
- 「BSM CI ダウンタイムの問題」(42ページ)

BSM トポロジの問題

本項では、SiteScope を BSM と統合し、モニタおよび関連した CI トポロジを BSM にレポートする機能を有効にする際のトラブルシューティングおよび制限事項について説明します。

本項の内容

- 「デバッグ・モードで SiteScope のログを開く」(23ページ)
- 「デバッグ・モードで BSM のログを開く」(24ページ)
- 「トポロジがレポートされない」(25ページ)
- 「RTSM のトラブルシューティング」(25ページ)
- 「データ・フローがレポートするポートを設定する場所」(25ページ)

デバッグ・モードで SiteScope のログを開く

SiteScope の次のログ・ファイルには、BSM 統合に関連した情報が含まれています。

- SiteScope\logs\bac_integration\bac_integration.log
- SiteScope\logs\bac_integration\discovery.log
- SiteScope\logs\bac_integration\probeGW-taskResults.log
- SiteScope\logs\bac_integration\topology_queue_consumer.log

次の手順を使用してデバッグ・モードで関連するログ・ファイルを開きます。

デバッグ・モードで SiteScope のログを開くには、次の手順を実行します。

1. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\PlainJava フォルダで `bac_integration.properties` ファイルを開き、デバッグ・レベルを `attachment1.txt` (この PDF に添付) に表示されているアペンダに変更します。添付ファイルを表示するには、[表示]>[ナビゲーションパネル]>[添付ファイル]を選択して、`attachment1.txt` を選択します。
2. `attachment2.txt` (この PDF に添付) に表示されているアペンダを `probeGW-taskResults.log` ファイルに追加します。添付ファイルを表示するには、[表示]>[ナビゲーションパネル]>[添付ファイル]を選択して、`attachment2.txt` を選択します。
3. `attachment3.txt` (この PDF に添付) に表示されているアペンダを `log topology_queue_consumer.log` ファイルに追加します。添付ファイルを表示するには、[表示]>[ナビゲーションパネル]>[添付ファイル]を選択して、`attachment3.txt` を選択します。

デバッグ・モードで BSM のログを開く

BSM の次のログ・ファイルには、SiteScope との統合に関連した情報が含まれています。次の手順を使用してデバッグ・モードで関連するログ・ファイルを開きます。

- <BSM のルート・ディレクトリ>\log\odb\odb\mam.autodiscovery.log
- <BSM のルート・ディレクトリ>\log\odb\odb\cmdb.reconciliation.log
- <BSM のルート・ディレクトリ>\log\odb\odb\cmdb.reconciliation.datain.ignored.log
- <BSM のルート・ディレクトリ>\log\odb\odb\discoveryServlet.log

デバッグ・モードで BSM(分散環境のデータ処理サーバ上) のログを開くには、次の手順を実行します。

BSM で RTSM のデバッグ・レベルを変更します。

- <BSM のルート・ディレクトリ>\odb\conf\log\reconciliation.properties
- <BSM のルート・ディレクトリ>\odb\conf\log\mam.properties
- <BSM のルート・ディレクトリ>\odb\conf\log\mam.web.properties

トポロジがレポートされない

1. デバッグ・モードですべての SiteScope や BSM ログを開きます。詳細については、「デバッグ・モードで SiteScope のログを開く」(23ページ)および「デバッグ・モードで BSM のログを開く」(24ページ)を参照してください。
2. \bin ファイルが <SiteScope のルート・ディレクトリ>\cache\topologyresultsData\merged ディレクトリに残っているかどうかを確認します。
3. 次の順でログにエラーがないか確認します。
 - **bac_integration.log**: スクリプトの一般的なエラーまたは構文の問題によりトポロジは送信されません。
 - **discovery.log**: データ・フロー管理を使用して SiteScope から BSM までレポートされるトポロジの全体像を示します。
 - **topology_queue_consumer.log**: SiteScope がデータ・フロー・プローブに送信を試みるトポロジを示します(これは必ずしもプローブ・クライアントがサーバに送信するトポロジとは限りません)。このログには SiteScope スクリプトがデータ・フロー管理にレポートを試みるものが反映されます。
 - **probeGW-taskResults.log**: データ・フロー管理が RTSM サーバに送信するトポロジを示します。
 - **mam.autodiscovery.log**: データ・フロー管理 プローブが SiteScope からデータ・フロー管理へのトポロジ・レポート(バルク作成)と RTSM サーバとのやり取りで行っている手順を示します。
 - **cmdb.reconciliation.log**: 問題が RTSM サーバ側にある場合、調整の問題である可能性が高いです。
 - **cmdb.reconciliation.datain.ignored.log**: RTSM サーバに無視され、レポートされないトポロジを示します。
 - **discoveryServlet.log**: SiteScope が開いた接続からのデータと SiteScope に送信された返信を示します。トポロジが BSM に送信されないという問題が発生するときにはこのログで例外を確認してください。このログは BAC 8.0 にも存在します。
4. XML 形式のログを開くときは、XML エディタを使用することを推奨します。

RTSM のトラブルシューティング

JMX で Data Flow データベースにレポートされる CI のプロパティを取得するには、次の手順を実行します。

1. Web ブラウザで `http://<BSM マシン>:21212/jmx-console/` を開きます。
2. [UCMDB:service= Model Services]をクリックします。
3. 起動メソッド: retrieveObjectProperties。

データ・フローがレポートするポートを設定する場所

BSM の[管理]>[システム可用性管理]>[トポロジ設定]の[トポロジ受信者ポート]または[トポロジ受信者 SSL ポート]ボックスからサーバ設定を初期化できます。

Operations Manager イベント統合の問題

本項では、Operations Manager 統合を使用して SiteScope イベントを直接 HPOM 管理サーバまたは BSM のオペレーション管理に送信する際のトラブルシューティングについて説明します。

本項の内容

- 「インストールの問題」(27ページ)
- 「統合設定の問題」(29ページ)
- 「イベント送信に関する問題」(32ページ)
- 「ノード・ディスカバリおよびモニタ・ディスカバリのトラブルシューティング」(34ページ)

ヒント: 統合ログ・ファイルを参照するときには、SiteScope ユーザ・インタフェースから開けます ([サーバ統計] > [ログファイル] > **HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log**)。

インストールの問題

現象:

SiteScope のインストール中、SiteScope 設定 ウィザードで HP Operations Agent のインストールを実行中にエラーが発生する。

トラブルシューティング:

1. `c:\Windows\Temp`, `/var/tmp` (Solaris の場合) または `/tmp` (Linux の場合) フォルダ中のエージェントのインストール・ログ `opc_inst.log` を開き、`opc_inst.lock` を削除します。
2. SiteScope のドキュメントを参照して、使用しているオペレーティング・システムが HP Operations Agent インストールによってサポートされていることを確認します。
3. SiteScope 設定 ツールを実行し、HP Operations Agent を再度インストールします(サーバを再起動することも推奨します)。
4. SiteScope 設定 ツールを実行し、HP Operations Agent を削除してから再度インストールします (サーバを再起動することも推奨します)。
5. HP Operations Agent を手動で再インストールします(サーバを再起動することも推奨します)。

Windows の場合:

- a. `C:\Program Files\HP\HP BTO Software\bin\OpC\install` からエージェントを削除します。
- b. 次のコマンドを実行します。 `cscript opc_inst.vbs -remove -force`
- c. [コントロール パネル] から HP Operations Integration Adapter Policy Activation パッケージを削除します。
- d. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\install\components\oa\<オペレーティング・システム> からエージェントを再インストールします。
- e. 次のコマンドを実行します。 `cscript opc_inst.vbs`
- f. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\install\components\oa_policy_signing_tool をインストールします。

UNIX の場合:

- a. 次のコマンドを実行します。 `/opt/HP/SiteScope/install/components/oa/<オペレーティング・システム>/opc_inst -remove`

ここでは、<オペレーティング・システム> は `solaris`, `linux`, または `linux64` のいずれかです。

- b. 次のコマンドを実行します。 `/opt/HP/SiteScope/install/components/oa/<オペレーティング・システム>/opc_inst`

c. Solaris の場合:

次のコマンドを実行します。 `/opt/HP/SiteScope/install/components/oa_policy_signing_tool/solaris pkgadd -a HPOprIAPA.admin -d HPOprIAPA-09.00.<バージョン>-SunOS5.10-release.sparc`

Linux の場合:

次のコマンドを実行します。/opt/HP/SiteScope/install/components/oa_
policy_signing_tool/
rpm -i HPOprIAPA-09.00.<バージョン>-Linux2.6-release.rpm

6. システムに新しいクリーンなイメージ・ファイルを置き、SiteScope と HP Operations Agent を再度インストールします。
7. サポートが必要な場合には、HPOM 管理者にお問い合わせください。

統合設定の問題

現象:

HP Operations Manager 統合設定の試行中(エージェントを HPOM/BSM サーバに接続してからテストメッセージを送信するまでの間), 何らかの問題が発生する。

トラブルシューティング:

1. SiteScope で, [HP Operations Manager 統合]ダイアログ・ボックス・パネルを開きます([プリファレンス]>[統合プリファレンス]>[HP Operations Manager 統合])。
2. [HP Operations Manager 統合メイン設定]ペインで, [HP Operations Agent インストールパス]を確認します。
 - a. [パスの解決]ボタンをクリックします。
 - b. このフィールドに表示されているパスにエージェントがインストールされていることを確認します。
 - エージェントが別のパスにインストールされている場合は, それに合わせてパスを更新してください。
 - パスが解決されない場合は(エージェントが適切にインストールされていない可能性があります), サーバ・マシンを再起動してください。それでも解決しない場合には, 「インストールの問題」(27ページ)のトラブルシューティングに従ってください。
 - c. HPOM 管理サーバまたは BSM ゲートウェイのホスト名が正しくホスト・フィールドに入力されていることを確認します。
3. [分析]ボタンをクリックします。
 - a. コマンド出力が空の場合, エージェントのインストールに問題があります。「インストールの問題」(27ページ)のトラブルシューティングに従ってください。
 - b. `bbcutil` コマンド出力で `status=eServiceOK` が返ることを確認します。そうでない場合には, HPOM 管理サーバへの接続に問題があります。
 - c. `opcagt -status` コマンド出力を確認します。数プロセスが実行されていることを確認します(ステータスが「Aborted」になっているプロセスもありますがここでは問題ありません)。実行されない場合には, コマンドライン `opcagt -start` を実行して手動でエージェントを起動するか, またはサーバを再起動します。
4. HPOM 管理サーバ稼働していることを確認します。
5. BSM と連携している場合は, ゲートウェイ・サーバおよびデータ処理サーバを次の手順で確認します。
 - a. コマンドライン `ovc -status` を実行してサーバを確認します。すべてのプロセスが実行されていることを確認します(特に「Certificate Broker」)。開始されなかった場合には, コマンドライン `ovc -start` を実行します。
 - b. 次のコマンドを実行して, SiteScope からゲートウェイ・サーバへの接続を確認します。 `ping https://<BSM ゲートウェイ・サーバ>/com.hp.ov.opc.msgr`。失敗した場合には, ゲートウェイ・サーバで WDE プロセスを再起動してください。
6. 分散された BSM 環境 (BSM 9.00 以降) で作業をする場合には, ゲートウェイ・サーバとデータ処理サーバとの間の信頼を初期化し, 証明書要求をゲートウェイからデータ処理サーバに転送する手順に従います。

詳細については、SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』の BSM または HPOM へのイベント送信に関する項を参照してください。HP Software Integrations では、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます (Windows の場合：
<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39>, UNIX の場合：
<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628>)。

7. [接続] ボタンをクリックし、コマンド出力が次のように返ることを確認します。opcactivate Info: Successfully activated OVO agent.

異なる結果が返される場合は、HPOM 管理者にお問い合わせください。

注: 証明書サーバと HP Operations Agent との間に大きな時間差 (24 時間以上) があると、`ovc - status`、`ovc -start` または `opcagt -status` といったエージェント・コマンドを実行した際に次のようなエラーが発生する場合があります。

```
(ctrl-21) Communication error when executing 'Status' method.  
(sec.core-113) SSL certificate verification error (The presented  
peer certificate is not yet valid.)
```

この問題は、証明書が指定した期間のみ有効なために発生しますが、通常は証明書が有効になると解決されます (1 日後)。時間はタイム・ゾーンと関係なく UTC (Coordinated Universal Time, 国際協定時) で指定され、証明書は 24 時間前から有効になるように発行されます。

8. 証明書要求を受け入れます。
 - BSM サーバに接続するときは、SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』のエージェントの接続要求を受け入れる手順に従います。HP Software Integrations では、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます (Windows の場合：
<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39>, UNIX の場合：
<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628>)。
 - HPOM 管理サーバに接続するときには、HPOM 管理者にお問い合わせください。証明書要求が表示されない場合は、HPOM 管理者にお問い合わせください。
9. [分析] ボタンをクリックします。
 - a. `ovcert -check` に問題がないことを確認し、「Check Succeeded」で終わっていることを確認します。
 - b. `ovcert -list` で証明書が一覧表示されていることを確認します。
 - c. コマンド出力に問題があった場合は：
 - HPOM 管理者に連絡するか、
 - 接続の段階から統合プロセスのトラブルシューティングを開始するか、必要な場合はエージェントを再インストールします。
10. [ポリシーのインストール] ボタンをクリックします。
 - a. ここでエラーが発生するか、または「お待ちください」で止まっている場合：
 - 最近エージェントを再インストールし、まだ再起動していない場合はサーバを再起動します。

- それ以外の場合は、エージェント(および追加ポリシー・アクティベーション・ツール・パッケージ)のインストールに問題があります。クリーンなイメージに再インストールしてください。
 - b. [分析] ボタンをクリックするか、[ポリシーのインストール]のポリシー一覧の出力を確認します。次の一覧の内容がすべて有効になっていることを確認します。
 - HP_SiteScope_to_Operations_Manager_Integration_by_Log_File
 - HP_SiteScope_to_Operations_Manager_Integration
 - SiteScope_Hosts_Discovery
11. [テスト メッセージ] ボックスで、メッセージを入力し、[テスト メッセージ送信] をクリックします。
- a. HPOM イベント・コンソールまたはオペレーション管理 イベント・ブラウザを確認します。
 - b. イベント・コンソールやイベント・ブラウザにメッセージが表示されない場合：
 - 次のコマンドラインを実行します。 `opcmsg a=a o=o msg_t=xxx`
 - コマンドが使用できない場合は、これまでのプロセスが正しくありません(証明書またはポリシーが機能していない)。ポリシーをインストールし直してください。それでも同じ問題が発生するときには HP ソフトウェア・サポートまでご連絡ください。
 - コマンドを実行してもイベント・コンソールにメッセージが表示されない場合は、HPOM 管理者に問い合わせてください。

イベント送信に関する問題

現象 1:

テスト・イベントを[HP Operations Manager 統合]ダイアログ・ボックスから送信しても、HPOM イベント・コンソールやオペレーション管理 イベント・ブラウザに到達しない。

トラブルシューティング:

1. [HP Operations Manager 統合]ダイアログ・ボックスで、[テスト メッセージ]ボックスにテスト・メッセージを入力し、[テスト メッセージ送信]をクリックします。テスト・メッセージがイベント・コンソールに表示されない場合は、「統合設定の問題」(29ページ)のすべての手順に従って再度やり直します。
2. [分析]ボタンをクリックして、すべてのコマンドが正常であることを確認します(特にインストールされたポリシーの一覧を確認します)。詳細については、「Operations Manager イベント統合の問題」(26ページ)を参照してください。
3. [テスト イベント送信]ボタンをクリックします。
4. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs ディレクトリで、イベント・ログ・ファイル **HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log** を確認します。ログ・ファイルにイベント・エントリがあることを検証します。見つからない場合は、HP ソフトウェア・サポートに問い合わせてください。
5. HPOM イベント・コンソールやオペレーション管理 イベント・ブラウザにイベントがまだ表示されない場合は、HPOM の正しいノードを表示していること、またはオペレーション管理 イベント・ブラウザでフィルタリングを適用していないことを確認してください。それでもイベントが表示されない場合は、HP ソフトウェア・サポートに問い合わせてください。
6. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\tools\OMIntegration\Policies\F516CEC3-3AD4-4627-9CFD-BB155B894349_data ファイルを開いて、**HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log** に指定されたパスが正しいことを確認します(環境変数を使用する場合があります)。ここで何らかの変更をする場合、ポリシーを再度インストールする必要があります。

現象 2:

HPOM イベント・コンソールやオペレーション管理 イベント・ブラウザにメトリックの状態変更または警告イベントが表示されない。

トラブルシューティング:

1. イベント・コンソールやイベント・ブラウザにテスト・イベントが表示されているかどうかを確認します。表示されていないときには、「イベント送信に関する問題」(32ページ)の現象 1 のガイドラインに従ってください。
2. イベント統合がモニタまたは警告設定で有効になっていることを確認します。モニタ・メトリック・ステータスを変更するか、警告をトリガします。<SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs ディレクトリで、イベント・ログ・ファイル **HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log** を確認します。
3. ログ・ファイルにイベント・エントリが見つからない場合は、実行しているモニタまたは警告でイベント統合が正しく有効化されていることを確認します(詳細については、SiteScope ヘルプの『HP Operations Manager 製品との統合』を参照してください)。HP Software Integrations では、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます(Windows の場合：<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39>, UNIX の場合：<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628>)。それでもログ・ファイ

ルに表示されない場合は、HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

4. イベント・エントリがログ・ファイルには表示されるがイベント・コンソールやイベント・ブラウザに表示されない場合：
 - a. イベント・ブラウザにフィルタが設定されていないことを確認します。
 - b. 新規作成したモニタで、オペレーション管理の関連した CI をフィルタしている場合、CI トポロジがまだレポートされていない可能性があります。数分たってから再び試してください。
 - c. HPOM レガシーで、イベントのターゲット・ノードがコンソールに存在することを確認します。
 - d. HP ソフトウェア・サポートにお問い合わせください。

現象 3:

オペレーション管理 イベント・ブラウザにメトリックや警告 イベントは表示されるが、関連した CI または HI、インジケータ状態や重大度が表示されない。

トラブルシューティング:

1. <SiteScope のルート・ディレクトリ>logs ディレクトリにある **HPSiteScopeOperationsManagerIntegration.log** ファイルのイベント属性値を確認します。HI(ETI) および CI ヒントを検索します。それぞれ CPU Load: High: 80 および SiteScope: 3:123456 のような形式である必要があります。
 - a. このタブ区切り行の属性順序を確認するには、このイベントの前にテスト・イベントを送信して行を比較します。テスト・イベントは独自の順序で各属性名を書き込みます。
 - b. CI ヒントや HI ヒントが不明、空白、または例と異なる形だった場合は、SiteScope 設定に問題があります。
 - SiteScope が BSM に登録されていることを確認します。
 - モニタしきい値にインジケータ状態が割り当てられていること、または警告に ETI および ETI 状態が設定されていることを確認します。
 - モニタ設定の SiteScope データをレポートするプリファレンス設定が [イベント] に設定されていることを確認します([HP 統合設定] > [BSM サービス状況プリファレンス])。
2. SiteScope のログ・ファイルに問題がなければ、オペレーション管理 イベント・ブラウザでイベントを開きます。
 - a. [一般] タブで、[関連 CI] 属性を確認します。関連 CI が表示されない場合は、[リゾルブ] タブを選択して、[ステータス] フィールドを確認します。
 - CI 解決の失敗についての情報があるかどうかを確認します。
 - BSM でモニタ・トポロジが使用できることを確認します(これは System Hardware または System Monitors ビューで確認できます)。

注: 新規作成したモニタでは、トポロジが到達してイベントに関連 CI が割り当てられるまで数分かかります。

- b. [一般] タブで、[関連 CI] は表示されるが [イベント タイプ インジケータ] が空白の場合：
 - [リゾルブ] タブを選択して SiteScope が送信した ETI ヒント属性値を確認します。値が空白または不明の場合は、SiteScope 設定を確認してください。

- 値はあるが、[一般]タブの[イベント タイプ インジケータ]に表示されない場合は、CIにインジケータを適用するときに問題が生じています。サービス状況またはオペレーション管理を確認してください。

ノード・ディスカバリおよびモニタ・ディスカバリのトラブルシューティング

ノード・ディスカバリ:

- HP Operations Manager for Windows 8.1x をお使いの場合は、SiteScope-HPOM イベント統合でノード・ディスカバリ機能をサポートするためにパッチ OMW_00071 が必要です。
- HP Operations Manager for Windows 9 を使用する場合に SiteScope ノード・プロパティを上書きしないでノード検出機能をサポートするには、パッチ OMW_00097/98 以降 (32 ビットおよび 64 ビット) が必要です。
- HP Operations Manager for Solaris/HP-UX/Linux 9.10 をお使いの場合は、SiteScope-HPOM イベント統合でノード・ディスカバリ機能をサポートするためにパッチ 9.10.200 が必要です。

ノード・ディスカバリに伴う問題:

1. [HP Operations Manager 統合] ダイアログ・ボックスの[分析]ボタンをクリックします。
SiteScope_Hosts_Discovery ポリシーがインストールされ、有効になっていることを確認します。
2. イベント設定が行われていることを確認します。テスト・イベントを送信し、SiteScope ノードの HPOM イベント・コンソールにそれが表示されることを確認します。

新しいノードは SiteScope モニタによる監視が開始してから 5 分以内にレポートされます。

ディスカバリ・ポリシーは、ポリシーで使用する XML を生成する SiteScope スクリプトを実行します。実行結果は次のログにそれぞれ記録されます。**%OvDataDir%\log\System.txt**(Linux の場合は **<SiteScope サーバ>/var/opt/OV/log**)。

3. 次のコマンドを実行してプロセスを手動で起動することもできます。

```
ovagtrep -run "SiteScope_Hosts_Discovery"ovagtrep -publish
```

モニタ・ディスカバリ:

HPOM サービス・ナビゲータを有効にして HPOM サービス・マップで SiteScope グループおよびモニタを表示するには、『HP Operations Manager 製品との統合』のモニタ・ディスカバリの設定手順に従います。HP Software Integrations では、本書の最新版が利用できるかどうかを確認できます (Windows の場合: <http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=39>, UNIX の場合: <http://support.openview.hp.com/sc/solutions/integrations.jsp?intid=628>)。

BSM メトリクス統合の問題

本項では、BSM メトリクス統合で作業するときサービス状況に CI ステータスが表示されない場合のトラブルシューティングについて説明します。

本項の内容

- 「HI/KPI 割り当ての確認」(35ページ)
- 「SiteScope データが BSM に無視されていないことの確認」(35ページ)
- 「CI 解決の確認」(36ページ)
- 「関連する CI に HI がない場合 (監視対象の CI には問題があり、モニタや測定値にはない場合)」(36ページ)
- 「関連する CI に KPI がない場合 (監視対象の CI には問題があり、モニタや測定値にはない場合)」(36ページ)
- 「HI も KPI もなく、前の 2 手順でもすべて問題がない場合」(36ページ)

1. HI/KPI 割り当ての確認

CI ステータスがサービス状況に表示されない場合、HI や KPI が関連した CI に割り当てられているかを確認します。

- a. BSM で、[管理]>[サービス状況]>[CI インジケータ]を選択して、[モニタ]フォルダを展開し、次のビューのうち 1 つを選択します。System Monitors, System Hardware Monitoring, および System Software Monitoring。
- b. 選択したビューで、次のように、関連した CI に HI と KPI が割り当てられているかを確認します。
 - System Monitors ビュー: SiteScope モニタまたは SiteScope 測定値 CI
 - System Hardware Monitoring ビュー: ノードまたはコンピュータ CI
 - System Software Monitoring ビュー: 実行中のソフトウェア CI

2. SiteScope データが BSM に無視されていないことの確認

HI および KPI が関連する CI に割り当てられていたら、SiteScope がデータを送信し、そのデータが BSM によって無視されていないかどうかを確認します。

- a. SiteScope で関連するモニタを実行します。
- b. BSM マシン上で、<BSM のルート・ディレクトリ>\log\wde フォルダにある **wdeIgnoredSamples.log** を開きます。このログに実行したばかりのモニタのサンプルが含まれている場合、または無視されたサンプルがたくさんある場合は、SiteScope は誤ったデータを送信していることとなります。
- c. 関連した SiteScope サンプルがない場合、**wdePublishedSamples.log** を検索し、`Eti_id` と `ci_hint` が null でないことを確認します。
- d. BSM の wde ログで SiteScope サンプルが見つからない場合は、SiteScope でサンプルが生成されているかどうかを確認します。<SiteScope のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\PlainJava 内の `bac_integration.properties` ファイルを開

き、**attachment4.txt**(この PDF に添付)にあるテキストをファイルの末尾に追加します。添付ファイルを表示するには、**[表示]**>**[ナビゲーション パネル]**>**[添付ファイル]**を選択して、**attachment4.txt**を選択します。

- e. モニタを実行し、**<SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs\bac_integration** ディレクトリ内の **samples.log** ファイルを確認します。

3. CI 解決の確認

HI と KPI が関連する CI に割り当てられていて、サンプルが BSM の wde ログによって無視されていない場合、CI 解決を確認します(監視対象の CI には問題があり、モニタや測定値にはない場合)。

- a. SiteScope で関連するモニタを実行します。
- b. BSM マシン上で、**<BSM のルート・ディレクトリ>\log\wde** フォルダ内の **cir_enrichment.log** ファイルを開き、**badHint** または **CI not found** メッセージが存在するかどうかを確認します。

注: ログ・ファイルをデバッグ・モードに変更するには、**<BSM のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\wde** フォルダの **cir_enrichment_service.properties** ファイルを開き、**loglevel** を **loglevel=DEBUG** に変更します。

4. 関連する CI に HI がない場合 (監視対象の CI には問題があり、モニタや測定値にはない場合)

関連する CI に HI がない場合、SiteScope のモニタ・ユーザ・インタフェースでインジケータ・マッピングを確認します(**[HP 統合設定]**>**[インジケータ設定]**)。

- マッピングが正しければ、BSM の RTSM で正しい SiteScope モニタ CI または SiteScope 測定値 CI に行き、**health_indicator_list** 属性に HI ID が表示されていることを確認します。
- 表示されている場合、監視対象の CI が **monitored_by** リンクによって SiteScope モニタまたは測定値 CI に接続していることを確認します。
- 問題がなければ、(**[管理]**>**[プラットフォーム]**>**[コンテンツ パック]**)で HPOM(HPOPr) コンテンツ・パックがデプロイされ、インジケータが正常に表示されることを確認します(多くの場合、**HPOPrInf** パッケージの中にあります)。

5. 関連する CI に KPI がない場合 (監視対象の CI には問題があり、モニタや測定値にはない場合)

関連する CI に KPI がない場合、HPOM コンテンツ・パックに KPI 割り当てがあることを確認します。

- a. BSM で、**[管理]**>**[サービス状況]**>**[割り当て]**>**[KPI 割り当て]**を選択します。
- b. CI タイプ・ツリーで、関連する CI にドリルダウンして(たとえば、**[インフラストラクチャ要素]**>**[ノード]**>**[コンピュータ]**)、CIT に KPI 割り当てが定義されているかどうかを確認します。KPI 割り当ては、右側のペインに表示されます。

6. HI も KPI もなく、前の 2 手順でもすべて問題がない場合

HI と KPI 割り当てを、CI タイプに基づいて問題のある CI に再同期化します。

- a. BSM で, [管理] > [サービス状況] > [割り当て] > [状況インジケータの割り当て] を選択します。
- b. 問題のある CI タイプを選択し(たとえば, コンピュータ), 実行する HI 割り当てを選択します。
- c. [CI タイプの同期] ボタンをクリックします。
- d. 完了したら, [KPI 割り当て] タブを使用して同じ操作を KPI 割り当てにも実行します。

Operations Manager メトリクス統合の問題

本項では、HP Operations Manager 統合を使用して、SiteScope メトリクス・データを HP Performance Manager またはオペレーション管理のパフォーマンス・グラフ作成に利用可能にする際のトラブルシューティングについて説明します。

本項の内容

- 「SiteScope および HP Operations Agent の設定」(39ページ)
- 「状況モニタのエラー」(40ページ)
- 「HP Performance Manager の設定」(40ページ)
- 「CI 解決が機能しない(cir_enrichment.log 中に "BadHint error")」(40ページ)
- 「データを HP Operations Agent にレポートするときのシステムのポート不足」(41ページ)

SiteScope および HP Operations Agent の設定

HP Operations Agent の設定の確認

1. 次のコマンドを実行して、SiteScope サーバにインストールされた HP Operation Agent のステータスを確認します。 `opcagt -status`

出力は次のようになります。

```
C:\Documents and Settings\>opcagt -status
opcmsga      OVO Message Agent      AGENT,EA      Aborted
opcacta      OVO Action Agent       AGENT,EA      <2476>      Running
opcmsgi      OVO Message Interceptor AGENT,EA      <376>      Running
```

`opcacta` または `opcmsgi` が実行されていない場合は、次のコマンドを実行してエージェントを再起動してください。

```
opcagt -stop
```

```
opcagt -start
```

2. [プリファレンス]>[統合プリファレンス]を選択して、既存の HP Operations Manager 統合を選択するか、新しいのを作成します。[イベント送信の有効化]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
3. モニタの[プロパティ]タブで、[HP 統合設定]を展開し、[HP Operations Agent にメトリクスをレポート]チェック・ボックスが選択されていることを確認します。
4. モニタを実行し、1分ほど待ちます。
5. 次のコマンドを実行してエージェントのデータ・ストアにデータが含まれているかを確認します。

```
set CODAMAGIC=0X05201993
```

```
ovcodautl -obj -ds AGENTLESS
```

AGENTLESS データ・ソースからオブジェクト名を受け取ります(次のように表示されます)。

```
C:\Documents and Settings\>ovcodautl -obj -ds AGENTLESS
Object Model

NumDataSources = 1
AGENTLESS

NumObjects = 14
AGENTLESS      MEMORY
AGENTLESS      LOGICALDISK
AGENTLESS      GLOBAL
AGENTLESS      PROCESSOR
AGENTLESS      SERVER__WORK__QUEUES
AGENTLESS      SYSTEM
AGENTLESS      DISK
AGENTLESS      CPU
AGENTLESS      URL__MONITOR
AGENTLESS      APACHE
AGENTLESS      SQL__QUERY
AGENTLESS      ORACLE
AGENTLESS      UMWARE
AGENTLESS      ORACLE9IAS__HTTP__SERVER

Data source: AGENTLESS
NumMetrics = 120
```

6. AGENTLESS データ・ソースの要約された最後のレコードをダンプするには、次のコマンドを実行

します。

```
ovcodautil -dumpds AGENTLESS
```

関連する SiteScope ログの確認

<SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs ディレクトリから、使用できる次のログを確認します。

- error.log
- RunMonitor.log
- om_metric_integration.log
- data_integration.log

状況モニタのエラー

SiteScope モニタ・ツリーで[状況]を展開して、[Log Event Checker]をクリックします。

- [Failed to report data to HP OM Agent]カウンタにエラーがある場合は、SiteScope は Java API を使用した HP Operation Agent への接続とデータのレポートに失敗しています。詳細については、<SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs ディレクトリにある oa_metric_integration.log ファイルを参照してください。
- [Generic Data Integration queue exceeded allowed size]カウンタにエラーがある場合は、送信待機中のメトリクスのキューのサイズが大きすぎて、メトリクスの一部は SiteScope の安定を維持するためにドロップされています。詳細については、<SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs ディレクトリにある data_integration.log ファイルを参照してください。

HP Performance Manager の設定

1. Performance Manager サーバ上で、%ovdatadir%\shared\server\conf\perf ディレクトリにある OVPMconfig.ini ファイルを開きます。
2. SiteScope サーバの詳細を次のように更新します。
 - [SITESCOPE]
 - SERVER = servename
 - NODEGROUP = Agentless
3. HP Openview Tomcat(B) サービスを再起動します。

CI 解決が機能しない(cir_enrichment.log 中に "BadHint error")

1. [管理] > [プラットフォーム] > [インフラストラクチャ設定]に移動します。
2. [アプリケーション]ドロップダウンで、[エンド ユーザ/システム可用性管理]を選択します。
3. [SiteScope CI リゾルバの設定]で、[TQL クエリ]の値を確認します。
標準設定値は[SiteScope によって監視される CI]です(BSM 9.20 以前のバージョン)。
4. [管理] > [RTSM 管理]に移動し、[SiteScope によって監視される CI]クエリの結果を確認します(BSM 9.20 以前のバージョン)。クエリの結果に要求した CI がない場合は、CI 解決でも見つけられません。

考えられる問題: CI に属性がないか、SiteScope のモニタ CI が監視対象の CI に接続されていません。

データを HP Operations Agent にレポートするときのシステムのポート不足

問題 : メトリクス・データを高負荷環境の HP Operations Agent にレポートするとき、システムのポートが不足します。

- SiteScope 状況で、ログ・イベント・チェッカ・モニタの `*Failed to report data to HP OM Agent.*` カウンタにエラーが表示されます。
- `oa_metric_integration.log` に次のエラーが表示されます。"ERROR - Failed to report data to /Hewlett-Packard/OpenView/Coda/ IO error while gettingSingle Object;Address already in use: connect".

考えられる解決策 : 一時的なポートの上限を増やし、Windows のクライアント TCP/IP ソケット接続のタイムアウト値を減らします。詳細については、<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa560610%28v=bts.20%29.aspx>を参照してください。

BSM CI ダウンタイムの問題

本項では、SiteScope を BSM と統合する際の CI ダウンタイムの問題のトラブルシューティングを説明します。

本項の内容

- 「CI ダウンタイムのトラブルシューティング(BSM 側)」(42ページ)
- 「CI ダウンタイムのトラブルシューティング(SiteScope 側)」(42ページ)

CI ダウンタイムのトラブルシューティング(BSM 側)

SiteScope モニタがダウンタイムに入らない場合(ダウンタイム設定に従わないまま実行を続ける、あるいは警告を送信する)、次の手順を実行して SiteScope と BSM を確認します。

1. SiteScope がトポロジを BSM にレポートしたことを確認します。BSM で[管理]>[RTSM 管理]を選択し、ノードとモニタ CI を確認します。
2. ログ:
 - <BSM のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\PlainJava\topaz.properties を開き、デバッグ・レベルを次のアペンダに変更します。

```
log4j.category.com.mercury.topaz.sitescopetmc=DEBUG, aims.appender
```
 - <BSM のルート・ディレクトリ>\log\EJBContainer にある aims.ejb.log ファイルを開き、"downtime" という文字列を検索します。ダウンタイムが作成されたか、どの CI が影響されたか、ダウンタイムがいつ SiteScope から要求されたかを確認してください。

CI ダウンタイムのトラブルシューティング(SiteScope 側)

監視停止オプションを使用して特定のノードにダウンタイムを設定した後も SiteScope モニタが実行されている場合は、次の手順で SiteScope を確認してください。

1. [プリファレンス]>[インフラストラクチャプリファレンス]>[一般設定]で、[ダウンタイムメカニズムを有効にする]設定が有効化されていることを確認します。
2. 次のログを確認します。
 - <SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs\audit.log
 - <SiteScope のルート・ディレクトリ>\logs\downtime.logこれらのログをデバッグ・モードで開くには、次の手順を実行します。
 - a. <SiteScope のルート・ディレクトリ>\conf\core\Tools\log4j\PlainJava フォルダで、log4j.properties ファイルを開きます。
 - b. デバッグ・レベルを attachment5.txt(この PDF に添付)に表示されているアペンダに変更します。添付ファイルを表示するには、[表示]>[ナビゲーションパネル]>[添付ファイル]を選択して、attachment5.txt を選択します。